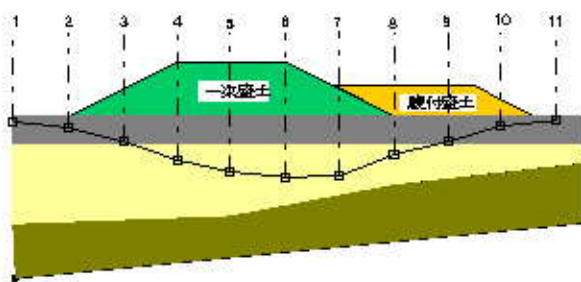


軟弱地盤の沈下と安定解析

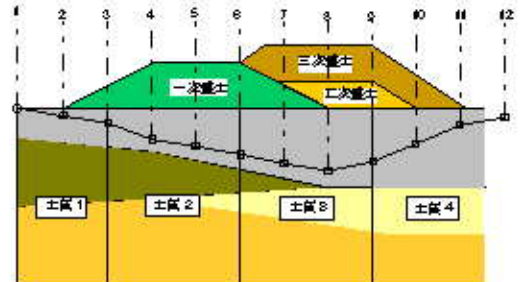
柔構造樋門・河川堤防の地盤沈下解析に対応しています！

地層が変化している場合に対応



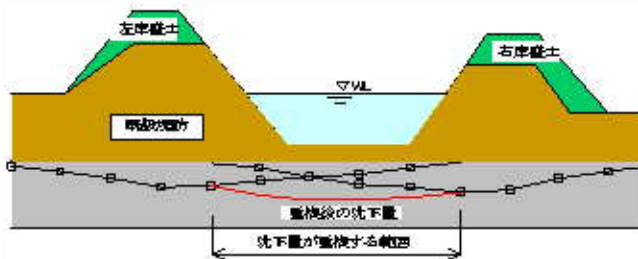
●地層の折れ点数は max10 個まで設定できます。

土質が複数ある場合に対応



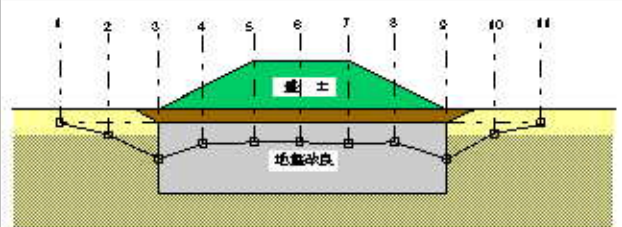
●土質は max5 個まで設定できます。

沈下量が重複する場合に対応



●両側盛土の重複沈下量の計算ができます。

地盤改良・置換土のある場合に対応



●地盤改良の置き換え荷重の差分が考慮できます。
●地盤改良および置換土を考慮した沈下計算ができます。

【機能の概要】

- 沈下検討は、圧密沈下量・即時沈下量・側方変位量、残留沈下量および土工上げ越し量の計算ができます。
- 圧密沈下の計算はCc法・mv法・e-logp法による計算が可能で、盛土数は最大5個まで設定でき、盛土毎に単位重量が変更られます。
- 層数は最大10層まで設定可能で、現地盤、設計地盤、地層の傾斜設定も可能です。また、土質データは最大5個まで設定可能で、これにより、同一層でも個別の土質定数の設定が可能になります。
- 土質データの地層毎に、圧密沈下、即時沈下、側方変位の計算有無の設定ができます。また、土質データの地層毎に e-logP 曲線、logCv-logp 曲線が設定可能で、より詳細な計算に対応できます。
- 沈下検討位置は最大20箇所の設定が可能で、その内1箇所について残留沈下量の検討が行えます。また、残留沈下量の検討は任意な基準日から算定期間までの残留沈下量の計算ができます。
- 地層内に置換土の設定が可能です。また、置換土の体積重量の差分を沈下量の計算に考慮することができます。

《適用基準》

道路土工「軟弱地盤対策工指針」(日本道路協会)H61.11月、「柔構造樋門の設計手引き」(国土開発技術研究センター)

※「連番設定」機能により出力編集できます。連番設定とは、出力書類の章・節・項の番号振りを編集する機能です。

*記載価格には消費税が含まれておりません。

株式会社ネオセルコ システム開発部
 広島市東区福田一丁目304-3
 TEL: 082-899-8891 FAX082-899-5901